

安全だより

～気のゆるみ

慣れと油断が事故のもと～

○発行日：令和5（2023）年1月4日

○発行者：公益社団法人

伊勢原市シルバー人材センター

安全管理委員会

〒259-1131 伊勢原市伊勢原2丁目7番31号

電話：0463-92-8801 FAX：0463-92-0008

URL：<https://webc.sjc.ne.jp/isehara/index>

日頃の安全就業の意識を高め “めざせ事故ゼロ”

～草刈り作業中の飛石事故等が数多く発生～

令和4年度は12月20日現在で、すでに過去2年間を超える件数の事故が発生しており、特に草刈り作業中の「刈払機による飛石事故」や「蜂に刺される事故」が多発しています。刈払機による事故は、全国的にも増えており、中には人身事故の事例もあるようです。

皆さん自身の健康やケガに注意するとともに、就業場所の周辺にも目を配り事故が起きないよう安全就業に努めましょう。

現在加入しているシルバー保険の保険料は、保険適用事故の発生状況から、ここ数年増加しています。今後も増え続けるようでは、何らかの対応を考えないといけなくなります。事故ゼロをめざして、一丸となって取り組みましょう。

▽事故発生状況（シルバー保険適用事故のみ掲載）

種別	令和2年度	令和3年度	令和4年度（4月～12月）
傷害事故	5件 ①伐根時につるはしが外れ敷石に腰を打ちつけ圧迫骨折1件 ②軽トラ荷台で剪定枝等の積込作業中に転落し肋骨10本骨折1件 ③犬にふくらはぎを咬まれる1件 ④車が横転しハンドルで太もも打撲1件 ⑤自転車で転倒し右手首骨折1件	7件 ①草刈り作業中に蜂に刺されアナフィラキシーショックによる急性心不全で死亡1件 ②草刈り作業中に蜂に刺された1件 ③施設管理中に階段を踏み外し左足首複雑骨折1件 ④植木剪定作業中に脚立から転落し左鎖骨骨折1件 ⑤工場内でシャッターが頭頂部に激突1件 ⑥就業場所への移動中の交通事故2件	5件 ①草刈り・除草作業中に蜂に刺された3件 ②就業後、帰宅途中の交通事故により左側頭部の切り傷など1件 ③草刈り作業場所に向かう途中での転倒で左ひざ上部等の打撲1件
	賠償事故	6件 ①刈払機での飛石による車窓破損2件 ②刈払機での機械警備用配線切断2件 ③刈払機でのゴルフ場水道管破損1件 ④障子取り外し時の敷居破損1件	4件 ①刈払機での飛石による車窓破損2件 ②植木の枝おろし作業中の電話線切断1件 ③植木剪定の作業内容の確認不足によるトラブル1件
計	11件	11件	12件

※上記のほか、令和4年度は、保険適用以外として、「施設内での転倒」、「会員による自己車両窓破損」、「蜂刺され」などが起こっています。

～新型コロナ・インフルエンザの同時流行に備えて～

この冬は、新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザと同時流行する可能性があります。同時流行が起こった場合、発熱外来や救急医療がひっ迫することも想定されます。ご自身と身近な人の健康をまもるため、日頃から準備を行いましょう。

基本的な感染対策の徹底を！

感染を拡大させないため、基本的な感染防止策の徹底を心がけてください。

■ 3密（密集・密接・密閉）の回避

「密閉」空間にしな
いよう、こまめな
換気を

「密集」しないよう、
人と人の距離を取
りましょう

「密接」した会話や発声は、避けましょう



■ マスクの着用

人との距離が確保できず会話をする場合にはマスク着用を推奨しています。

【マスク着用のポイント】

- ・鼻と口の両方を確実に覆う
- ・ゴムひもを耳にかける
- ・隙間がないよう鼻まで覆う



■ こまめな手洗い・手指消毒

さまざまな物に触れることで、ウイルスが付着する可能性があります。ウイルスは粘膜から感染するため、できるだけ目や鼻、口に触れないようにしましょう。

また、帰宅時や調理の前後、食事前はせっけんやアルコール消毒剤で手を清潔に保ちましょう。



■ 抗原検査キットの準備

発熱等の症状が出た際に医療機関での受診ができない場合に、ご自身で検査をできるように検査キットを準備しましょう。

検査キットは、シルバー事務局でも備蓄していますので、緊急に必要な時は、有償（1個 1,375円）でお分けすることができます。

※ただし、数に限りがありますので、品切れの場合はご容赦ください。

※インフルエンザウイルスも、「手洗いと手指消毒」と「うがい」、「咳エチケット」が感染予防に効果的といわれています。また、免疫力の低下は、感染しやすい状態を作るため、十分な栄養や睡眠を取ることも大切です。

※発熱などの風邪の症状があるときは、ご自分の健康や感染拡大の防止の観点から就業を控えるようにしてください。なお、その旨すみやかに事務局にご連絡ください。

【編集後記】

今年度の事故件数は、過去2年間を上回る発生状況となっています。事故を防ぐには、「安全はすべてに優先する」を念頭に置き、「自分の安全は、自分で守る」という意識啓発が何より重要です。

自分を過信することなく、事故は誰にでも起こりうることととらえ、細心の注意を払い、事故に遭うこと、事故を起こすことがないように、みなさま、年度末に向けて気を引き締め参りましょう。

《安全管理委員会》

委員長 海老澤 昇
副委員長 菊地 清秀
委員 川上 絃光
三須 好夫
吉田 陸雄
河毛 周之
亀井 貞男
竹田 正樹

